

令和5年度 八郎潟町教育委員会の点検評価

6. 9. 10(火)

八郎潟町教育委員会は、開かれた教育行政の実現に向けて、次のとおり令和5年度教育委員会評価をまとめ、令和6年9月町議会議定例会へ提出します。

教育委員会評価の実施について

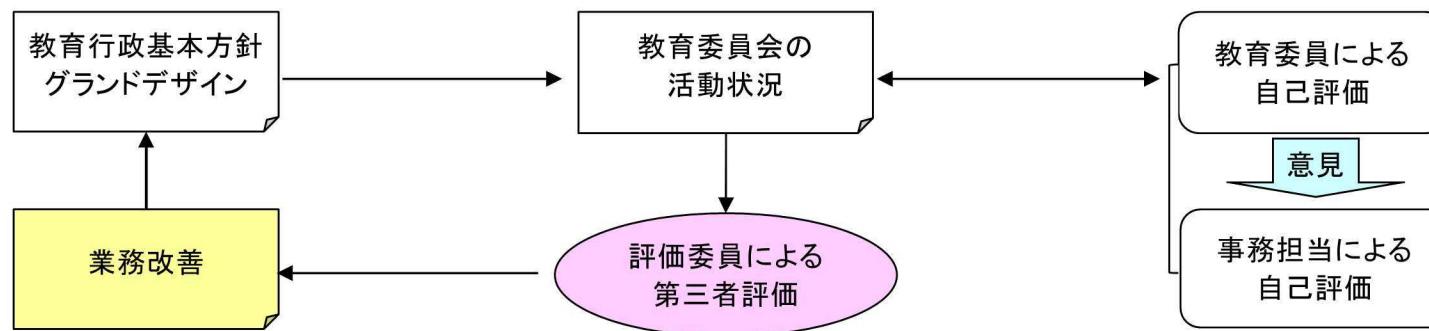
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成20年4月施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

八郎潟町における評価の実施



評価計画

3月	（自己評価の集計、まとめ）【教育委員及び事務担当の自己評価は2月中に実施】 ※達成度の評価基準 A；よく達成できた B；達成できた C；達成できなかった
4月	第1回委員会（概要説明、評価方法の説明）
6月	第2回委員会（教育委員会活動及びグランドデザイン重点施策についての評価）
7月	第3回委員会（評価結果の確認）
9月	評価結果を9月議会へ提出
10月	評価結果の公表（ホームページで）

◆教育委員会

事業名	事業内容	教育委員自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
総合教育会議	町長部局と教育行政に係る重点的に講ずべき施策等の協議を行う	A	町長と直接意見交換ができています。定例会での課題と提言が実現するなど、会議は機能している。	よく機能しているようだ。今後も忌憚のない意見交換を期待する。ただし、町HPでの会議録の更新が滞っているのを、改善してほしい。
教育委員会の年間活動計画	定例会及び臨時会を開催する（事務局との連携及び運営上の工夫等を含む）	A	事前に議案の提示や資料の配布があり、準備して十分な話し合いに臨むことができています。町広報誌で定例会の公開日時が町民に周知されている。	定例会が効果的に進められているが、教育委員会の透明性を高め、身近なものとするためにも、議事録の公開等の情報提供が必要なのではないか。
	教育行政の運営に関する一般方針を定める	A	国の教育行政や点検評価の結果を踏まえた方針が示されている。	教育行政グランドデザインを更新しながらよく進めている。この町ならではの独自性を保ちつつ、点検・評価を次年度に生かしてほしい。
	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出る	B	意見や疑問、不明な点を十分協議し、納得できるものとなっている。	最善の取捨選択になるよう、継続して進めてほしい。また、補助事業等のイレギュラーな予算を確保する機会がある場合は逃さないでほしい。
	教育委員会規則の制定又は改廃を行う	B	学校部活動地域移行など、現状に即した制度・改廃がなされている。	人口減少に伴い、地域との関わりのある教育活動等が一層求められる。実態に即して関係各所で協議しながら最善の道を探してほしい。
	各種委員会委員の任命及び委嘱を行う	A	経験や専門性を有した方々が任命・委嘱され、その任を果たしている。	適正に進められている。今後も関係者が絶えず協議を重ね、最良の人選になるよう努めてほしい。
	教育委員研修を行う	A	東北6県市町村教育委員会連合会研修会に参加できて、国の教育施策や他町村の取り組みの講演などから、有意義な研鑽を積むことができた。	今後も人材育成など多様な分野の研修に参加し、その成果を教育施策に反映するよう期待する。
	学校訪問等を行う（計画訪問、指導主事訪問、授業参観、部活動・スポーツ少年団訪問、施設訪問など）	B	学校計画訪問や行事に参加でき、園児や児童生徒の元気で逞しく成長している姿を見ることができた。特に、中学1年生のGoogle Earthを活用した社会科の授業には驚いた。	現場の職員や園児・児童生徒の活動を直接観ることで互いの刺激になり、研修にもなっている。今後も学校の声や保護者の声を聴き、施策に反映できる活動を続けてほしい。

◆学校教育

1 確かな学力を育む
4 実践力を育てる

2 豊かな人間性を培う

3 健康の維持と体力の向上を図る

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
八郎潟町学校評価システムの実践	学校教育の重点事項（知・徳・体に関する共通課題）について評価を行う	A	評価システムに町の学校教育の重点を盛り込み、子供の実態に応じた目標を学校・園で設定して自己評価している。小学校と中学校においては、学校運営協議会委員から教育活動の評価をしていただき、次年度の学校運営に生かしている。	適正かつ効果的に進められ、評価が細やかな学校経営に生かされている。この評価も公開した方がよい。
園・小・中の連携	こども園と小学校の交流会の実施と小学校と中学校の連携教育を推進する	A	こども園と小学校では、連携に関する会議や園児と児童の交流会を実践した。小学校と中学校においては、乗り入れ授業や合同あいさつ運動等を実施し、併設校における接続の在り方に関する研究を継続している。	こども園・学校間の連携に工夫が見られる。生まれてから義務教育を修了するまでを、町でサポートしていると言える。
学校支援サポーターの配置 （中1名、小6名）	支援を要する子供の学習支援及び生活面をサポートする	A	支援を要する児童生徒への対応並びに教育の充実のため、会計年度任用職員を小学校に6名、中学校に1名配置し、教育支援委員会からの要望に添うように進めている。	支援体制を充実させるなど、教育支援委員会での園・学校からの要望に真摯に対応している。今後も継続してほしい。
英語科及び英語活動サポーター事業	小学校新学習指導要領に示された5・6年生英語科と3・4年生英語活動をサポートする	A	英語活動サポーター2名を配置し、担任教師とTT指導を実践しており、学習指導方法を工夫・改善することで、児童のコミュニケーション能力が高まるなど、成果が見えている。	経験値の高いサポーターと担任教師との意思疎通により効果的に進められ、成果が出ている。今後も継続してほしい。
英語指導助手	英語力向上のため、外国人を採用して英語学習を進める 地域の人材を活用し、子供たちと密着した学習活動を展開する	A	14年目となった英語指導助手は、毎年熱心に指導方法や教材研究をしており、職務に取り組む姿勢が非常に優れている。 地域に溶け込んだ活動は、児童生徒に限らず保護者とのコミュニケーションもよくとられている。	常に新しい情報を取り入れようと研鑽を積む姿勢に敬意を表したい。町に優れた人材がいることは僥倖であり、今後も大切にしてほしい。
メール配信事業	緊急時情報などを保護者の携帯電話やパソコンに速やかに連絡できるようにする	B	平成24年度から導入している本事業は、ほぼ全ての世帯が登録しており、緊急時に学校から配信される情報は、速やかに保護者に伝えられている。	今後も全ての世帯に重要な情報が正確に届くよう配慮するとともに、最善の活用方法を考えながら活用してほしい。
学校給食費助成事業	町内に住所を有する児童生徒の保護者を対象に、教育の充実及び子育て支援を目的として、給食費を助成する	A	平成24年度から町内在住の児童生徒の保護者に対して学校給食費の全額を助成することで、経済的負担を軽減している。 昨今の急激な物価上昇への対応に配慮を要する。	食材の高騰が献立に影響を与えるため、学校栄養職員との連携を密にして進めてほしい。また、恒常的に予算を確保できるよう努力を継続してほしい。

スクールバス助成事業	遠距離通学のためにスクールバスを提供するとともに、教育の充実及び子育て支援を目的として通学バス利用に係る経費を助成する	B	平成27年度からバス定期の全額助成により保護者の経済的負担を軽減している。現在、マイタウンバスと町所有バスの両方を通学バスに利用している。 小学生のバス利用を優先するために、中学生への助成は休止しているが、利用児童が減少した場合には、中学生のバス通学を再開したい。	途絶えることなく助成を継続しているのはありがたいことである。今後も継続していくために、国や県などの様々な補助事業の活用などを探っていく必要がある。
4歳児健康相談	子供の成長過程を確認し、就学に向けて適切な対応を図ることを目的として、健康福祉課と協力して健康相談を実施する	A	町内の4歳児全員の親子が、発達検査をしたりフッ化物洗口や子育て講話を聴いたりするよい機会となっている。 また、個々の発達課題について共通の理解をもつ機会となり、臨床心理士からアドバイスをもらうことで、子育ての不安軽減につながっている。事業終了後は、教育アドバイザーの園訪問により、ケース会議につなげることができた。	事業内容が充実し、子育てしている保護者の孤独化防止や不安解消のために良い機会となっており、大変素晴らしい。今後も継続してほしい。
安全・安心フォーラム（ハP連）	安全・安心な町づくりを目指した取り組みを推進するとともに、通学路の安全に関する課題を検証する	A	ハP連主催による安全・安心フォーラムは、「インターネットの健全利用について」と題して、県庁出前講座を活用した講演会を実施した。中学校のPTA全体会と中体連全県総体の激励会に併せて開催したことで、多くの方々が参加できた。 このほか、安全安心な教育環境の構築に向けて、毎年ハP連が通学路等の町内危険箇所の改善要望を町に提出し、夏季休業中に町当局・警察・ハP連の3者で改善について検証している。	様々な会合やイベントがある中、学校行事と抱き合わせて実施することは、参加者の確保や事業担当者の労力の軽減を図る上で良い方法だと言える。テーマも時宜を得たものである。
小中学生のフッ化物洗口事業	子供たちの歯を虫歯から守り、健全な歯の育成のため、学校歯科医師の協力のもとに実施する	B	事業の実施にあたっては、保護者の同意を得て、週1回法によりフッ化物洗口を実施している。中学校100%、小学校95%の実施率となっている。同意できない保護者が一定数いるので、啓蒙と普及に引き続き努めていきたい。	事業に賛同できない家庭があるのは致し方ない。事業の効果を示すなどして普及につなげてほしい。
八郎潟町立学校防犯カメラ設置事業	児童生徒の安全安心確保のため、防犯カメラを設置する	A	校舎正面出入口、駐輪場、北側駐車場、西側搬出口の4箇所を監視できる位置に防犯カメラを設置し、セキュリティ向上を図った。また、今後設置台数を比較的容易に増やすことが可能となるよう拡張性を持たせた機器構成を採用した。	児童生徒の安全安心が確保される一つのツールが増えて良かった。今後も様々な問題に対処するために積極的な取組を期待する。
八郎潟町立学校電子黒板機能搭載プロジェクター購入事業	ICT教育に対応するため、電子黒板機能搭載のプロジェクターを配備する	B	電子黒板機能搭載プロジェクターを4台調達し、小・中学校のICT教育の環境整備を図った。 各階に1台ずつ（1階のみ2台）だけの設置であるため、いつでも活用できる訳ではないことから、今後台数の増が必要と思われる。	ICT教育の充実のために、限りある予算の中で、順次整備していったほしい。
通学用バックパック配布事業	児童の身体的負担及び保護者の経済的負担軽減のため、軽量で耐久性のあるカバンを新入学児童に支給する	A	令和6年度に八郎潟小学校に入学する新1年生を対象に、軽量で耐久性の高いバックパックを支給した。 通学への使用判断は各家庭に任せるが、特に低学年児童の身体には相当の負担を及ぼすと思われる重いランドセルに代わり、軽量なカバンを使用することのできる環境を整えるとともに、高額なランドセルを購入する必要がない環境を整えることで、保護者の経済的負担を軽減できた。	素晴らしい取組なので、今後も継続してほしい。使用判断を各家庭に委ねるという対応もよい。

◆社会教育

- 1 学習機会の充実 2 家庭教育の支援 3 芸術文化の振興 4 文化財の保護と継承
5 町立図書館の充実

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
放課後子ども教室	放課後や長期休業中に小学校の教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、児童に勉強やスポーツ活動の場を提供する	A	教員免許を有している指導員2名を配置し、放課後に学習会を実施（登録者52名）している。また、夏季休業中には漢字・算数検定学習会を中学生も参加（児童43名・生徒7名）してはちパルで実施した。 秋田音頭伝承サークル（29名）は後継者育成の一端も担っているが、指導者が高齢化してきた状況に、今年度は男女2名の体制で実施できた。 なお、ヨット教室は社会体育と連携した事業で行っている。	多様な学習機会の充実と学習支援への積極的な取組は素晴らしい。人材があつてこそその事業なので、指導員も登録制にするなどして確保できるとよい。
やすらぎ交流会	高齢者が生きがいをもち、仲間づくりと楽しい老後生活を送れるように、講演会、移動学習、交流会を開催する	A	5月から2月までの期間、学習会を毎月1回開催している。 新型コロナウイルス感染症対策のため中止となっていた移動学習（あきた芸術村）は、19名が参加して3年ぶりに実施することができた。 今後、新規会員の勧誘に努めていきたい。（会員数31名）	移動学習ができるようになり、活動内容の幅が広がって良かった。さらに会員が増えるよう、町民への周知をお願いしたい。
観劇の集い	優れた舞台芸術に触れる機会を提供し、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養う	B	あきた芸術村「わらび座」の観劇を11月14日に開催したところ、昨年度より9名多い14名が参加できた。	基本的に個人の嗜好に関する事業だが、こうした機会を作ってもらうのはありがたい。参加者が増えるよう、町民への周知をお願いしたい。
夏休み さきがけ 子ども新聞教室	新聞の特徴や読み方を学び、誕生日記念号外を作成することで、読解力の向上を目指す	B	8月6日（日）、はちパルにおいて12組28名（子供16名保護者12名）が参加した。新聞を身近に感じながら慣れ親しむとともに、親子のコミュニケーションもとれて好評であった。	親子で一緒に活動するイベントは増加傾向にあると思われる。新聞離れが進んでいると言われているので、是非継続してほしい。
成人式	大人になったことを自覚する機会を提供し、その前途を祝福する	A	8月15日（火）、改善センターにおいて30名が参加した。 式典終了後には、一日市郷土芸術研究会による「願人踊」が披露され、参加者も演じるなどして、小学生時代を懐かしんでいる様子が伺えた。	同級の仲間と触れ合い、昔を懐かしむことは、個人個人の貴重な思い出・財産になる。「ふるさと」を意識する機会にもなるので、実行委員への支援を含め、継続してほしい。
第39回 子ども盆踊り大会	県指定無形民俗文化財「一日市盆踊り」への参加を促進し、後継者の育成を図る	B	昨年度と同様、子ども会に限らず、スポ少や有志などにも参加要件の枠を広げて募集したところ、参加団体は全て子ども会で、合同チームを含め、4団体40名の参加となった。 今年度は、太鼓の周りを踊るといった工夫したところ、輪が小さくなり賑わいを見せていたように感じた。	参加要件の枠を広げるのは良いことだと思う。子どもたちのよい思い出づくりと次世代の後継者育成のために、引き続き継続してほしい。

秋田県青少年劇場	小・中学生向けの優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供し、豊かな情操の涵養を図る演劇・音楽公演からいずれかを選択して開催する	A	県・町・法人の共催事業で、全校児童生徒を対象に学校体育館で、演劇「ピーターパンとウェンディ」を開催できた。 舞台芸術の鑑賞は、子供たちにとって豊かな感性が培われ、健全育成を図ることに繋がる。今後も学校と協議の上、提供できるように努めていきたい。	情操教育の一環として有意義なことだ。活用できる県の事業などは積極的に活用して、効果を上げていくとよい。
趣味講座	個人の要望、社会の要請に応じた各種趣味講座を開催する	B	町内外の多様な知識や技術を持っている方々に講師を依頼し、町民のニーズに応えた講座を開催できるように心掛けている。 ヨガ教室は、9月～2月まで15名の参加で10回開催し、親子いけばな教室は、1月6日に9組17名の参加だった。 今後も、多くの方々が参加できる講座の開催を推進していきたい。	人生を楽しく豊かに生きる一助になる可能性を秘めているので、大いに多方面に展開していったほしい。アンケートで要望のあった講座内容を考察してみるなど、今後も工夫して取り組んでほしい。
歴史文化財探訪	町内外の歴史や文化に触れる機会を提供し、郷土を愛する態度や心を豊かにする	A	6月10日に公民館と図書館との「こらぼ講座」の一つとして「まちぶらり～八郎太郎信仰と伝説の地を訪ねるバスツアー～」を開催した。町内外から参加した25名は、八郎湖周辺の神社や石祠（せきし）など12か所を1日かけて巡り、講師の天野荘平氏（湯船保存会）の解説によって、伝説の痕跡や身近な地元の魅力を再発見しながら教養も深めたようだ。 今後も地域の宝を知り、地域の誇りにもつながるような歴史や文化に触れていきたい。	「こらぼ講座」のアイデアはすばらしいので、今後も継続してほしい。良い事業内容なので、後学の徒がいつでも学べるよう、「手軽に学べる記録」を残すことも検討してほしい。
芸術文化祭	芸術文化に触れる機会を提供し、町民の創造性の高揚と文化的風土づくりを進め、文化の振興を図る	B	芸術文化協会員と生涯学習奨励員の協力もあり、昨年同様、カラオケ発表会と舞台発表会を開催することができた。来場者も増え、カラオケ大会には21名、舞台発表には12団体117名の方々から出演していただき、来場者からの声援の中、大いに賑わいを見せていた。また、作品展示には424名の方々から出展をいただくことができた。	たくさんの町民が参加できてよかった。発信する側とそれを鑑賞する側の両方があって文化が形成されていくものであろうから、今後も関係者が協力して事業を進めてほしい。
合同厄払還暦祝	人生の節目に当たる厄払・還暦を祝う	B	2月3日（土）、改善センターにおいて県内外在住者を問わず開催した。総勢73名の参加者があり、節目の年に旧友が一堂に会して神事を執り行った。	成人式同様、節目の思い出は生きる力になると思われるので、大事にしたい事業であり、引き続き継続してほしい。ただし、多くの人が参加しやすいように、実施時期を検討することも視野に入れてほしい。
学校支援事業	小中学生に対して、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整備する	B	学校支援ボランティアとして、小学校は正課クラブ（ふるさと先生）、中学校は総合的な学習の時間に、地域住民が教員と一緒に、より専門的な知識をもって指導している。 学校支援ボランティアも恒例になりつつあるが、地域学校協働活動推進員によるコーディネート活動が展開されており、今後も学校と地域のパイプ役として期待されている。	地域の人材活用により、子どもの教育活動の成果は上がっていると思われる。今後も、町の宝である子供たちを育てるために、コーディネーターと連携し、充実した学習が積み重ねられるよう期待する。

図書貸出事業	新刊図書の購入、県立図書館との相互貸借事業と図書整理を行い、町民の読書意欲を促す	A	図書貸出事業のみならず、郷土資料の収集、図書館単独事業、他部署との連携事業、学校図書館支援活動、図書館広報活動などの地域に積極的に出ていく事業企画によって、図書館の存在認知が広まり、町民を始めとする地域住民の皆様からたくさんの利用や事業参加をいただいた。 公共図書館に対する地域住民のニーズは、年々高まってきており、今後も質を落とさずに読書意欲を促す多面的な事業展開が必要となる。	様々な事業を企画しており、町民だけでなく、他市町村の人も活用して、大変意義のある施設となっているのは誇らしい。今後も積極的な取組に期待する。
後継者育成事業	県指定無形民俗文化財「願人踊」「一日市盆踊り」と地域の伝統芸能「秋田音頭」の後継者育成を支援する	B	一日市郷土芸術研究会は、願人踊、一日市盆踊り、秋田音頭などの保存や伝承のため活動しており、その中で町の後継者育成事業において、児童生徒への指導にもご尽力いただいている。少子化という状況で、伝統芸能を後世に継承していくことは難しいことではあるが、同研究会が少しでも活動しやすいように、運営費の一部として補助金を交付している。	郷土芸能はふるさとの一部であり、心の拠り所となり得るものなので、途絶えさせてはいけない。行政による働きかけや補助金の交付等の支援は有意義であり、今後も継続してほしい。
文化財保存事業	町指定文化財「小池板碑群」等の管理と保存NPO法人「浦城の歴史を伝える会」への業務委託	B	町指定文化財である小池板碑群保護施設の管理を地域住民に依頼している。板碑に発生したカビの事案については、施設の窓を改修したことにより、風通しがよくなったことである程度改善できた。 浦城跡登山口駐車場に設置している簡易トイレの管理を浦城の歴史を伝える会に依頼している。また、地域史料館の維持管理については、地域史料館運営委員会と指定管理者制度に基づき委託契約している。 登山口駐車場の管理トイレの更新と地域史料館内の展示ケースの設置は、必要に迫られているため、予算の確保が課題となっている。	文化財は貴重な資料であるから適切な保存と活用が大事だ。そのための予算も必要となるので、専門家の知見を頼りに有意義な方法を探してほしい。
館ノ下遺跡発掘調査	農地集積加速化基盤整備事業（高岡地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査の整理作業及び発掘調査報告書作成・発刊を行う	A	令和4年度に調査した館ノ下遺跡の発掘調査報告書を250部作成し、県内25市町村及び全国の埋蔵文化財関係の博物館等に送付できた。 経費は、県からの交付金が92.5%となっている。	発掘調査は予想すらできずに始まることが多い中で、発掘報告書を作成し、調査を完結させたことに敬意を表し、関係者に労いの言葉を送りたい。

◆社会体育

- 1 町民総参加の各種大会・教室の開催
- 2 スポーツ団体の育成と指導者の養成
- 3 オリンピック記念会館を中心とした体育施設の開放
- 4 総合型地域スポーツクラブへの支援と普及

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
町民体育館夜間開放	毎週土曜日に夜間開放し、町民に運動に親しむ場所を提供する	A	日常生活の中にスポーツ及びレクリエーションスポーツを普及させることを目標に、体育施設を開放する。 夜間開放を行うことで運動する場を提供し、身体を動かすきっかけづくりとなるように努めていく。	町民への施設開放は有意義である。 今後も継続をお願いしたい。
スポーツ少年団結団式	スポーツ少年団員と指導者が集い決意を新たに励み合う機会とする	B	4月に新団員を含んだ総勢115名の結団式を開催した。1年間仲間と共に励まし協力することを誓い、決意を新たにスタートしている。	活動の始まりと終わりのセレモニーは、意欲付けや達成感の醸成のためにもぜひ実施してほしい。
チャレンジデー	全国一斉に、毎年5月の最終水曜日実施される住民参加型のイベントで、15分以上継続して運動した住民の参加率を競う内容となっている	A	今年度も他の自治体と対戦を行わないオープン参加型で実施した。町内会へのPR活動に努め、参加率は昨年度よりも1.6%増加し、66.9%となった。 チャレンジデー事業は、令和5年度をもって終了となる。	オープン参加型になったことにより義務感が薄れ、参加率の向上に結び付いたのではないかと。今後は別の形で行われるよう期待する。
B & Gの運用 （8月15日～ 8月31日）	B & G海洋センタープールを開館し、全町民に開放して水に親しむ機会を提供する	B	利用者が昨年の3,517名に対し、3,359名と減少した。このことはプール改修工事に伴い、開館期間を例年より15日間縮小し、8月31日で閉館した影響が大きい。 小・中学校の授業への受け入れについては、スムーズに実施された。	プールの建物や設備の改修を年次計画で進めることが決まったので、利用者数や利用者層の更なる拡充に期待したい。
水泳教室	小学生を対象に、指導者による教室を開催する	A	水泳教室を4日間（8回）実施したところ、延べ152名の小学生が参加できた。 指導者の方々の丁寧な指導により、泳ぐことのできなかった児童も泳ぐことができるようになるなど、笑顔で指導を受けることができた。	事業の定着が見られ大変望ましいことである。泳げるようになることで、子供の自信にもつながるので、これからも継続してほしい。
ヨット・カヌー教室	小学生を対象に、指導者による教室を開催する	B	ヨット教室を2日間実施したが、参加者は4名にとどまった。 土・日の開催のため、スポ少活動などで参加できない児童が多いようである。参加できた児童は実際に湖面に出てヨットを操縦するなど有意義な時間を過ごした。ヨットやカヌーの楽しさを伝えながら参加者増に努めていきたい。	地道な活動の継続はとても大切と思われる。開催日時の変更等、参加者の増加に向けて何らかの対策を講じてほしい。

町民体育祭	全町民が一堂に集い各種スポーツ競技・レクリエーションへの参加を通し、町民相互の連帯を深め、健康で明るい町づくりを図る	A	町民体育祭は隔年で開催をしているが、新型コロナウイルス感染防止のため延期が続いていたが、5年ぶりに開催できた。 参加者同士の接触が少ないレクリエーション的な種目を多くして、楽しい体育祭を企画したところ、多くの町民から参加いただくことができた。	久しぶりに活気が戻ってきた感がある。種目も工夫され、楽しんで参加する姿が見られた。しかし、区単位の町民総参加の事業としては成立していないのではないかな。事業内容の検討を期待する。
全町スポーツ大会	グラウンドゴルフ大会	B	昨年は、団体の部で10町内会15チーム、個人の部で15名の参加で、今年は、団体の部11町内会12チーム、個人の部で20名の参加だった。今後も参加する町内会が増えるように呼びかけていきたい。	昨年より参加者が増えているのはよいことだ。今後も参加したくなるような呼びかけをして、引き続き継続してほしい。
	ビーチバレーボール大会	B	昨年は、一般の部で5町内会の参加に対し、今年は、一般の部で8町内会の参加があった。女子の部も企画したが、当日は1町内会の参加にとどまった。 大会を開催するにあたり、スポーツ推進委員の協力でスムーズに運営することができた。今後も参加町内会が増えるように努めていきたい。	女子の部については検討が必須。事業は継続してほしいが、参加する町内会が固定化されているのであれば、事業の見直しが必要。
	家庭バレーボール大会	B	昨年は、5町内会の参加に対し、今年は、7町内会の参加だった。 大会を開催するにあたり、バレーボール協会やスポーツ推進委員の協力でスムーズに運営することができた。今後は、開催日数などの見直しを図りながら継続的に事業を進めたい。	日程などを検討して、継続してほしい。参加する町内会が固定化しているのであれば、見直しが必要。
	ラージボール卓球大会	B	昨年は、8町内会の参加に対し、今年は7町内会から9チームの参加だった。 大会を開催するにあたり、卓球協会やスポーツ推進委員の協力でスムーズに運営することができた。	日程などを検討して、継続してほしい。参加する町内会が固定化しているのであれば、見直しが必要。
	ディスコン大会	B	昨年は12町内会（18チーム）の参加に対し、今年も12町内会の参加だった。大会を運営するにあたり、スポーツ推進委員の協力のもとスムーズな大会運営ができた。今後も参加町内会が増えるように努めていく。	今後も参加町内会が増えるよう呼びかけをしながら、引き続き継続してほしい。
ふるさとあきたラン (全県市町村対抗駅伝大会)	県が全市町村に呼びかけて行われる大会である (今年度は由利本荘市において開催)	A	総合21位、町の部5位という結果に終わったが、小学生から一般までの選考メンバーは練習を重ね、繰り上げスタートなくタスキをつなぐことができた。 ふるさとあきたラン事業は、令和5年度で休止となる。	参加者はよく頑張り、よい思い出となっただろう。チームを作り上げてきた指導や運営・サポートの担当者に敬意を表したい。

スポーツフェスティバル	全町民が各種スポーツやレクリエーションスポーツに触れる機会を提供する	A	スポーツ協会主催のフェスティバルは、全町民を対象にレクリエーションや縄跳び大会を実施した。同日開催のプロジェクト8主催の「一夜市」の商品券がもらえる企画を行ったところ、幼児から一般まで多くの町民が参加し成功裏に終えることができた。今後も多くの町民から参加してもらえるような企画運営に努めていきたい。	参加しやすく楽しいイベントにしたことが成果につながった。また、ここでも事業同士のコラボレーションが効果を発揮しているようだ。このことを今後、事業を計画する上で参考にしてほしい。
表彰式 スポーツ講演会	一年間のスポーツ大会の成績に対し、功労賞、特別賞、栄光賞、奨励賞を与え表彰する	B	スポーツ協会主催の表彰式・スポーツ講演会を2月10日に実施した。今年、1年間頑張った方々を表彰し、今後の励みとなるように努めている。 講師に東京2020オリンピックにカヌー競技で出場した小野祐佳氏を迎えての講演会の予定だったが、体調不良のため、ビデオレターを視聴することになった。	表彰される人にとっては晴れ舞台であり、町民に様々なスポーツでの活躍を伝える機会でもある。今後も続けてほしい。
かけ足運動表彰式	町民の体力向上を図る	B	今年度は上級300日以上11名、中級240日以上4名、初級180日以上1名で、参加人数も昨年度に比べて大きな変化はなかった。 町民の体力向上を図る上で今後も継続していきたい。	参加者は決して多くはないが、医療費削減など厳しい社会情勢の今こそ必要な活動であるし、受賞者にとって励みになるので、顕彰は継続してほしい。
総合型地域スポーツクラブの推進	5年度事業計画に基づいて活動する	B	総合型地域スポーツクラブの推進では、現在のところスポーツ協会と共催でスポーツフェスティバルなどの事業を進めている。 単位協会の既存活動に引き込むことやサークル活動、スポーツ教室等を事業として、幅広く周知を図って行きたい。	身近な地域で好きなスポーツを楽しむよう、現状を把握し、協会間の連携やコラボ企画など、創意工夫した計画を立てて、実践を継続してほしい。
B & G 海洋センター 鉄骨・上屋シート改修工事	老朽化が進んでいる鉄骨部の修繕や上屋シートの入替えを行い、町民が安全に水に親しめる場所の確保を図る	A	鉄骨部の修繕や上屋シートの入替えを行ったほか、変更契約により、ボイラーの入替えとトイレやシャワー設備も改修することができた。 今後も地域の方々が安全に利用しやすい環境を整えていくように努めていきたい。	次年度の活動が楽しみになる改修・修繕が行われ、何よりである。関係者の行政センスに感謝したい。